目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第59号　2013年6月

発行人：大野　利幸　編集長：地田　博昌　事務局長：小杉　哲

事務局：〒152－0023　目黒区八雲4－9－14　Tel 090－7825－6270

2013年定時総会開催のご案内

2013年目黒稲門会定時総会を、下記の通り開催致しますのでご案内申し上げます。公私ともご多用の中と存じますが、奮ってご参加のほどお願い申し上げます。

総会では、2012年度事業実績報告、決算及び監査報告、2013年度事業計画、予算案等の審議を予定しております。

また、各部会の報告に加えて、実質的にスタートしている「早稲田スポーツ観戦部会（仮称）」の正式な設立が予定されております。その他にも、皆様の多彩なご趣味、ご経験を生かせる新たなご提案をお待ちしております。

第２部の懇親会では、母校を同じくする者同士、大いに語り、大いに飲み、肩を組んで声高らかに「都の西北」を響かせたいと存じます。

なお、ご参加の皆様には、クールビズにてご参加賜りますようご案内申し上げます。

記

1.日　時　2013年7月21日（日）
　　受付開始　　15時30分
　　総会・懇親会　　16時～19時

2.会　場　目黒雅叙園　　4階飛鳥の間
　　目黒区下目黒1－8－1
　　TEL　03－3491－4111（代表）

3.交　通　JR山手線、東急目黒線、地下鉄南北線、三田線、目黒駅下車徒歩5分
　　東急バス　権之助坂・日の出学園下車3分
　　目黒駅からの迎えバスの運行はございません。雅叙園よりの送りバスの運行がございます。

4.会　費　10,000円、ご同伴家族　5,000円
　　当日会場受付にてお支払い下さい。
　　当日キャンセルの場合、予約の都合上、会費のご負担をお願いします。

5.ご出欠　会報に同封の葉書にて、6月28日（金）までにご連絡下さい。　　（田島　記）

各部会からの案内・報告

美術・歴史鑑賞部会

３月13日（水）10時15分に三菱一号館美術館の中庭に集合して、「奇跡のクラーク・コレクション―ルノワールとフランス絵画の傑作」を鑑賞。「金髪の浴女」「鳥と少女」「劇場の桟敷席」等のルノワールの名作22点。その他に、マネ、モネ、コローの名画を楽しみました。鑑賞後は、参加者（18名）で美術館内にあるレストラン「ｃａｆｅ1894」でランチ。このレストランは、三菱銀行営業室として利用していた空間を復元したクラシックなミュージアムカフェとして有名です。

次回予定は、白金台（目黒駅徒歩15分）にある松岡美術館の「松岡コレクション 印象派とその時代／うつわのかたち」です。実業家・松岡清次郎が一代で収集した素晴らしい美術品を所蔵する美術館です。

年内での候補として、「プーシキン美術館展」（７月６日から９月16日 横浜美術館）、「ルーヴル美術館展」（７月20日から９月23日 東京都美術館）、「国宝興福寺 仏頭展」（９月３日から11月24日 東京芸術大学大学美術館）です。

日時等が決まり次第ご案内いたします。

美術・歴史鑑賞部会長　　後藤克彦

早稲田スポーツを観戦する会

４月21日（日）、前夜来の冷たい雨も昼過ぎには上がりましたが、春とは思えない寒さの中、14名の会員と相模原稲門会のメンバーが早慶レガッタを応援に隅田川桜橋に集まりました。

OB戦は井村コーチの指導が利いたのか勝利しましたが、現役エイトは新艇のかいもなく慶応に大差で破れ残念な結果となりました。

終了後は浅草の老舗鍋屋「たつみ屋」で、冷え切った身体を熱燗で温めながら懇親を深め、来年の勝利を誓い合いました。

４月29日（月）、爽やかな気候に恵まれた駒沢競技場で行なわれたアメリカンフットボール早慶戦に19名の会員と家族が応援に駆けつけました。アメリカ人の主審が判定を英語でアナウンスしたり、両校のブラスバンドとチアガールによる華やかな応援合戦もあり、アメフトらしい賑やかで楽しい雰囲気を楽しむことが出来ました。

試合はみんなの熱い応援の甲斐があって38対７と早稲田の圧勝に終わりました。

ゲーム終了後は野球の早明戦の応援に回った３名と合流し、馴染みの都立大「やるき茶屋」で祝杯をあげました。

世話人　　狩野俊夫

ボランティア活動推進部会

ポリオワクチン１万人分達成！

ボランティア活動推進部会も発足して今年で３年目を迎えました。この間、目黒稲門会会員の皆様が参加される各部会活動で７人以上お集まり戴いた際、１人１口100円の募金をして戴き、その募金をバヌアツ、ブータン、ミャンマー等の発展途上国の恵まれない子供達への「ポリオワクチンの購入」支援金としてNPO法人「世界のこどもにワクチンを日本委員会」を通じユネスコへ寄付して来ました。

本年は２月に３回目の寄付（70,000円）をさせて戴き、累計でワクチン10,000人分を送ることが出来ました。毎回の募金は少額ですが今後もコツコツ地道に長く続けて行く計画です。引き続き一層のご支援ご協力をお願い致します。

ボランティア活動推進部会長　　稲垣博信

感謝状

目黒稲門会 様

あなたは世界の子どもにワクチンを
日本委員会の主旨に賛同し発展途上
国の子どもの命と健康を守るための
活動に多大なご支援を下さいました
ここに深く感謝の意を表します

二〇一三年二月一日

理事長　細川佳代子

特定非営利活動法人
世界の子どもにワクチンを　日本委員会

よん月会

４月22日（月）午後６時より第165回よん月会を開催、いつもの「やるき茶屋」にて24名参加し大いに盛り上がりました。

会には前世話人の土川俊雄氏が久しぶりに参加し、会話の回復ぶりに皆喜びにあふれました。また、会としての新人２名も参加し、大いにうちとけ、次回からの参加と他の部会への参加を検討するとのことで、この会の趣旨を発揮することができました。

小生は今回から世話人代行を降り、新世話人として安藤孝幹事が就任し、会を取り仕切ることとなりました。新しい「よん月会」のスタートとなります。

この３年あまり世話人代行として続けてこられましたのも参加の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

世話人代行　　井村正陽

ウォーキング部会

今年は天候が一定しませんが、皆様は体調に気をつけて元気に一緒に歩きましょう。

３月19日（火）、参加14名。

三浦氏や北条氏の祈願所から徳富蘆花の小説の舞台を歩く

４月13日（土）、参加13名。

高幡不動から南平丘陵を歩いて多摩動物公園へ

５月21日（火）、鬼平を歩く・芝から麻布へ

＜６，７，９月の予定＞

初参加、初心者、友達　大歓迎です。

６月例会

鎌倉古道をたどり季節の花を愛でる町田・七国山探訪

ダリヤ園及びボタン園を巡る

日　　時　　６月７日（金）　午後１時

集合場所　　小田急線町田駅改札外

７月例会

都内の公園を歩く第２回

山本有三記念館、井の頭公園を経て神代植物公園、深大寺まで

日　　時　　７月20日（土）　午後１時

集合場所　　ＪＲ三鷹駅改札外　（東京寄り）

９月例会

都内の公園を歩く　第３回

向島百花園、旧岩崎邸庭園を経て六義園、旧古河庭園まで

日　　時　　９月17日（火）　午後１時

集合場所　　ＪＲ亀戸駅北口改札外

小雨決行。参加される方は牧野までご連絡ください。

ウォーキング部会長　　牧野武夫

ゴルフ部会

去る４月24日（水）第32回ゴルフ部会を静岡県御殿場ゴルフ倶楽部において開催しました。

当日は雨と風と寒さの悪コンディションにも拘わらず、出場最多回数30回目となる島田久家さんをはじめ22名が参加、全員元気に賑やかにプレーしました。

試合結果は、優勝　村上満氏、２位　小池早苗氏、３位　狩野俊夫氏と今回も常連が上位を占めました。次回こそ新しい顔が上位に並ぶことを期待します。

次回は新ペリア方式を従来の持ちハンデ方式に戻して、10月23日（水）埼玉県のおおむらさきゴルフ倶楽部において開催致します。

ゴルフ部会長　　大杉邦雄

若木会

３月30日（土）、例年になく早期に咲いてしまった桜が散る前に、若木会主催の目黒稲門会花見会を開催いたしました。「心の若木会」として、10人強の先輩・若手が集まり、目黒川散策後にハワイアンのお店にて花見酒を堪能という花見の醍醐味を満喫できた会となり、先輩方にもお喜びいただけたかと思います。

☆

４月27日（土）、昨年８月に初開催をした若手大福会（早稲田・慶応交流会）の第２回を実施いたしました。目黒通り沿いにあるインドネシア料理のお店にて、慶応６人・早稲田11人の計17人という大人数にてお店を占拠して開催することとなり、11時過ぎまで時間を忘れてこれからの若手の活動について語り合いました。お互いに大いに刺激を受けることもあり、今後は頻度を上げて開催すべくＭＬを作成する事になりました。いずれは先輩も含めた形で拡大大福会を開催できればと考えております。

今後の活動としては以前告知したように、朝日テレビの某番組にインスパイアされた企画である【朝まで若木会】を開催しようと考えています。

若木会部会長　　中西元樹

グルメ部会

２月13日（水）に今年度５回目のグルメ部会を実施しました。冬の味覚ということで、今回の企画はあんこう鍋です。あんこうは茨城が本場。その茨城県産品を提供しているのが会場の「茨城マルシェ」さんです。定刻の18時30分に集まった会員は18名。まずは茨城の地ビール・常陸野ネストビールで乾杯。茨城産前菜５種の盛り合わせ、ローズポーク照り煮、茨城大豆の冷や奴とコースが進むにつれて、日本酒も進みます。メインの味噌仕立てあんこう鍋の時には会場はすっかり盛りあがっていました。締めは鍋にうどんを入れ、20時30分に散会しました。（そのあと飲みに行かれた方もあったようですが）

４月17日（水）には「八重桜を楽しむ会」を実施しました。新宿の伊勢丹デパートの前に12名が集合して、まずはデパ地下で各自の好みのお弁当の購入です。それから新宿御苑へ向かいました。ここには10種類くらいの八重桜があり、見ごろは４月中旬ということになっています。ところが、ソメイヨシノもそうでしたが、今年は花の開花が早く、すでに終わりかけでした。となれば、「花より団子」です。早速、芝生の上でお弁当を広げました。屋外で食べるというのは気持ちのいいものです。いろいろなお話が飛び交いました。

御苑内を散策したあと、近くのカフェでビールやお茶、アイスクリームで反省会をおこない、解散しました。　　グルメ部会長　　猪名川一雄

囲碁部会

４月１日の例会は、12名の方が参加され、１時30分から５時半まで、皆さん、それぞれに対局を楽しまれました。会員の皆様にも、それぞれ事情があり、参加数および顔ぶれも殆ど同じで、固定化している状況です。４月の12名は、最近では最高でした。因みに、１月から３月まで、９名、10名、10名でした。

囲碁は楽しい遊びですから、60の手習い、70の手習いで始めてみませんか。囲碁の楽しさを表す言葉に、「爛柯」（らんか）という中国の故事があります。一人の樵が木を伐りに山へ行くと、二人の老人が囲碁を打っていました。余りの面白さに、時が経つのも忘れ見入ってしまい、さて、木を伐りに行こうとして、斧を持とうとしたら、すでに、斧の柄が腐っていた。上記の故事は斧の柯（柄）が爛（くさる）くらい、長い間、楽しんでいたということです。

毎月第１月曜の１時30分に、下目黒住区センター３階でお待ちしております。まずは、お出かけください。

これからの予定については、毎月の例会は既にご承知と思いますが（会報58号ご参照）、６月１日（土）に第13回オール早稲田囲碁祭があり、５名１組の団体戦で、例年のように、目黒からも２組の参加を考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

囲碁部会長　　大久保健治

俳句部会

今回は芭蕉の句を３句ほどご紹介します。

山路来て何やらゆかし菫草
よく見れば薺花咲く垣根かな
花の雲鐘は上野か浅草か

第51回「萩句会報告」　（順不同）

川井素山　渡り漁夫お国訛の昼餉時
保井寶正　花冷の世紀のお練り銀座道
牧野里山　雀の子軒の先から顔を出し
青木英林　一斉に咲きし辛夷の白さかな
後藤克彦　さり気なく花菜ひとつを皿にそへ
丸山酔宵子　花浮かぶ池の波紋や金閣寺
佐久間喬　春雨に黒塀黒し武家屋敷
永井正孝　落椿犬も避け通る小径かな
佐々木彩女　ひとひらも溢さぬ花の盛りかな
安藤虎酔　涅槃西風光の中に阿弥陀仏
吉田啓悟　鎌倉に静かなる雨や花御堂
佐久間たか子　陽光にれんぎょうの黄は引き立ちて
（参考）
佐藤喜仙　遠霞裾に火影のまたたきぬ

俳句部会長　　佐藤喜孝

会員の広場

オホーツク旅行

村山　弘（昭44　法）

旅行部会としては通算22回目の旅行を１月25日（金）より１泊２日で北海道・オホーツクの旅が実施されましたので、その道中記を村山が報告します。

参加者は、井村部会長、大野会長、吉田幹事長をはじめとする17名で、うち女性が３名でした。いつもと違い、旅行会社主催のツアーなので稲門会の他に一般参加の方が17名おられ、総勢34名のツアーです。

１．北海道横断のバス旅

羽田空港を9：00出発のジャンボ機で10：35新千歳空港に到着したところ、前日からの寒波の襲来もあり、乗継便が欠航との案内があり、旅行会社の対応待ちとなりました。予定では、乗継時間が45分で12：10にはオホーツク紋別空港に到着し、昼食と観光で早めのチェックインをしてゆっくり温泉に入る優雅な旅になる筈でした。11：30頃になり紋別までバスで行くということになり、各自で昼食をとり、12：45緊急手配のＪＲ北海道バスで砂川まで約１時間半乗りました。砂川には現地で利用予定の北紋バスが迎えに来てくれていたので、バスの乗継をして紋別を目指すことになりました。砂川・比布・滝上とトイレ休憩を３回とり、紋別市内に到着したのが17：50で、このまま雄武のホテルに行ってくれるものと思っていたら、流氷科学センターが17：00閉館のところを特に開けて待っていてくれるということで30分見学し、その後ホテルに到着したのが19：10でした。約６時間半のバス旅でした。

［砂川で２台目のバスに乗り換えました］

２．流氷科学センター

出発の１週間前に網走に流氷が着岸したニュースがありましたが、すでに離岸していて見ることが出来ないとのことでした。オホーツク海はサハリンとカムチャッカ・千島列島に挟まれて、かつシベリア大陸・アムール川の淡水が流れ込み、上辺は淡水の比率の多い海となるため、シベリアでできた流氷が北西の季節風にのって北海道沿岸まで南下する際にも溶けないということだそうです。

３．ホテル

夕食は、時間も遅くなったということで、風呂にも入らず、19:30から始まりました。稲門会メンバーのみの別室での宴会で、毛ガニの浜茹で、ホタテ・サーモン・真タコの刺身、雄武産ブリの塩焼き、雄武産カレイの唐揚げ等盛り沢山の料理に舌鼓を打ちました。温泉はちょっとしょっぱいのですが、神経痛や関節痛に効くとのことで、肌もつやつやするようでした。

４．地吹雪

翌朝は暴風雪の中で目が覚めました。ホテルの上階から外を見ていると、街灯しか明かりがない中で街灯に向かって真横から斜め下から雪がなぐりつけている状態が良くわかりました。これを見て、帰りの飛行機も欠航するかという不吉な予感が過ぎりました。ＴＶの天気予報を見ても９時までは暴風雪、その後は終日雪になっていましたが、幸いにして8時頃には止みました。この地吹雪については、バスガイドさんの話では、今日は水分を多く含んだ雪だったのでこの程度でしたが、普段はもっと暴れまくるとのことでした。

５．とっかりセンター、オホーツクタワー

野生のアザラシを保護し、自然復帰を目指す施設で、アザラシに直接さわることができました。「とっかり」はアイヌ語でアザラシのことだそうです。オホーツクタワーは海中観測窓から流氷が見られるとのふれこみでしたが、流氷が見られず残念でした。流氷砕氷船ガリンコ号に乗りたかったのですが、朝の暴風雪の影響で欠航でしたので、気温－6度の中で、船の前で集合写真（前号掲載）を撮りました。

北海道らしい天候でしたが、初めて参加した妻も楽しかったのでまた機会があればと申しておりました。部会長をはじめお世話になりました皆様に御礼申し上げます。

［“メイドイン紋別”の流氷（突堤内で出来た薄い氷）］

今年式年遷宮を迎える伊勢神宮を訪れて

金井豊男（昭和41年　理工）

昨年２月末にリタイヤしたあと、６月初めに伊勢神宮を１泊２日の日程で訪れた。初日は豊橋駅よりバスで伊勢神宮まで行き外宮を参拝し、二見浦の夫婦岩を見て１泊、２日目は、内宮を参拝し、「おはらい町／おかげ横町」を散策するスケジュールであった。

この歳になり、思えば私の母は昔ながらの女性の常で、旅行の経験が乏しく、旅行といえば、「お伊勢参り」をした程度と聞かされていたのを思い出した。それが今回の旅行のきっかけとなった。

聞くところによると、伊勢神宮は日本人の心のふるさとといわれ、別称「お伊勢さん」「大神宮」ともいわれ、宇治の五十鈴川の川上にある皇大神宮（内宮）と、山田原にある豊受大神宮（外宮）の両大神宮を中心として、125の宮社から成り立ち、全国８万の神社の本宗であるとされる。

内宮が創建されてから約500年後建立された外宮は、天照大御神の食事を司り、衣食住すべてに関わる産業の守り神と崇められる豊受大御神を祀っている。表参道入口より火除橋を渡り、緑に囲まれて、白い玉砂利が美しい神苑を進み神楽殿を更に行くと右手に四重の板垣に囲まれた正宮が見えてくる。正殿を中心とする社殿は、内宮とほぼ同じ建築様式であるが、鰹木（かつおぎ）は９本で千木（ちぎ）は垂直に切られており、社殿の配置も異なっている。独特で珍しい様式に、私は非常に興味を持った。正宮参拝後、亀石と三ツ石を見て広がる原生林の中の別宮の「土宮」、「風宮」、さらにその先の「多賀宮」を廻り、１日目の参拝を終えた。

お伊勢さんの表参道門前町といわれる二見浦は、もともとは、伊勢神宮への参詣の前に、二見の海岸のきれいな海水で旅のよごれを落とし身を清めたところとされている。夫婦岩は、沖合いの海中に鎮まる興玉神石の鳥居と見なされており、夫婦岩の間からの日の出の遥拝所として古くから知られている。

神宮では、神様にお供えする神饌や、それを盛る器、神御衣などは「全て」神宮の神域やその周辺で自給自足している。米は五十鈴川の水を引いた神田で育ち、祭典で供えられる野菜、果物は専用農園で栽培される。神饌として供えたり、祓いに使用する御塩は二見の御塩殿で作られる。神饌の中でも重要な鰒は鳥羽市の国崎で採取され、鯛は愛知県知多郡篠島にある調製所で干鯛にされる。豊穣なる神域は、古代から地産地消を永続している。私はこういった点は、非常に特筆すべき点で、すばらしいことだと思う。

いよいよ、２日目は、内宮参拝だ。神道の主神、天照大御神を祀る内宮は、五十鈴川の川上に千古の森に囲まれており、2000年の時を超えて古代のたたずまいを今日に伝えている。内宮の玄関口に当たる五十鈴川に架かる宇治橋は、長さ101.8mの檜造りで、式年遷宮の一貫として20年に一度架け替えられている。橋を渡ると、いよいよ内宮の聖域へと入り、さすがにこの時は身も心も引き締まる。大正天皇御手植松を右横手に見ながら歩き五十鈴川の川辺まで降りられる御手洗場で心身を清め、神杉が立ち並ぶ参道を木漏れ日や鳥のさえずりを感じながらさらに歩いて行くと、最も奥まった場所の左手の石段を設けた高台に、正宮（写真）が現れた。社殿の中心の正殿は五重の板垣に囲まれていて「唯一神明造」の古代建築様式で、萱葺きの屋根には10本の鰹木がのせられ、４本の千木の先端は水平に切られている。一般の参拝は白絹の御幌が下がる外玉垣南御門の前までとなっていた。そのため、その場所で心静かにお参りした後、宮域内にある荒祭宮、風日祈宮を廻り、内宮参拝を終えた。

今年は、伊勢神宮の第62回目の式年遷宮の年。20年毎に正殿をはじめ御垣内の建物全てを社殿に隣接する敷地に建て替えし、さらに殿内の御装束や神宝を新調して、御神体を新宮へ遷す。20年に一度行われる理由には、礎石を用いない宮社の耐久年数説、20年に一度元旦と立春が重なる大陸渡来暦説、稲の貯蔵年限説、伝統的な建築・工芸技術継承説など諸説がある。いずれにしても、それぞれの時代に生きる人々が20年に一度、この式年遷宮を迎え、建築・神宝・装束などの技術を継承し守っていることを示す一大イベントとなる。式年遷宮に必要な檜の御用材は、12,000本といわれ、江戸時代以降、主に木曽で伐採されていた。しかし、現在、宮域からの供給を目指し「200年計画」が進められている。

内宮参拝の後、五十鈴川沿いにある「おかげ横町」を散策した。「おかげ横町」は、江戸時代の「おかげ参り」の頃の伊勢の人情と風情を再現している。最後は、伊勢みやげの代名詞ともいえる「赤福餅」を赤福本店で味わい、長旅の疲れを癒やした。

奇しくも、本年には、日本を代表するもう一つの神社、出雲大社が「遷宮」のイベントを迎える。是非そちらについても訪れてみたいと考えているところである。

ユダヤとイスラエルと安全と

丸山忠生（昭和44年　法）

地中海のアラブ諸国に囲まれたきな臭いイスラエルに初めて行ったのは、湾岸戦争も終わり、イスラエルのラビン首相とＰＬＯのアラファト議長が握手し、歴史的な和平が実現しそうな17年ほど前、ミュンヘン経由でテル・アビブに向かったのである。ミュンヘン空港のテロ厳戒態勢は、ミュンヘンオリンピックでの選手村襲撃の影響か、今でもテル・アビブ行きのターミナルはポツンと隔離され、荷物チェックは３度も全て開けて下着まで見せる程厳重。パスポート検査では「どこで、だれと何時会うのか？」を詳細に聞かれ、最後はイスラエルの先方まで国際電話して確認するのである。

――アンマンにて――

イスラエルはユダヤ国家。旧約聖書『出エジプト記』にあるように、流浪の民となりエジプトに幽閉されていたユダヤの民は、預言者モーゼによる「Exodus　栄光への脱出」によって、「ミルクと蜂蜜の肥沃な約束されたカナンの地」に戻ったのである。しかし、キリスト以後の新約の時代になり、時代の荒波にもまれたユダヤ民族は、世界に散らばり、迫害の中で過酷な運命に翻弄されたのである。

20世紀初頭『シオニズム運動』の台頭から、1948年第１次中東戦争により、ユダヤ国家として現在の地でのイスラエル建国となったのである。

ユダヤ人の定義は、勿論ユダヤ教を信じる人々ではあるが、基本的には「ユダヤの母から生まれた人はユダヤ人である」とされている。男子の場合は生後割礼をするわけで、その後、ユダヤ教伝道師ラビから名前を付けてもらうのである。

アインシュタインをはじめ、今までのノーベル賞受賞者の約90％がユダヤ系であるそうだが、ユダヤ人の頭の良さの根源は、ユダヤ人は子供のころから膨大な旧約聖書を読み、その解釈の仕方は先ず先生が教えるのではなく、自分自身でその行間を読み取らせること、つまり自分自身で考える力の訓練をさせるのだそうだ。

「Exodus栄光への脱出」により世界各地から入植した同胞たちは、土漠の荒地の開墾の為キブツ（協同農場）を作り、北の唯一の水源であるガリラヤ湖から南の砂漠までへのパイプラインの埋設と豊富な灌漑散水システム（Irrigation System）を実現させたのである。これによるハイテク栽培の野菜や果物の生産では世界の先端を走っていて、スィーティやデイツなどの果物は日本にも輸出されているポピュラーな果物である。また、ハーブや花のハウスコンピューター制御栽培は高度な技術で、ダイアナ妃の死を悼む薔薇の多くがイスラエルからロンドンに出荷された。

ブドウ栽培でもワイン生産可能緯度の最南端であるが、ハイテク農法によるブドウ栽培と、醸造技術で、中々素晴らしいワインが出来ている。特にユダヤの歴史的富豪であるロスチャイルド家の肝いりで造られた“Carmel Wine”は世界的な評価を得ている。

イスラエルにはそれ以来都合10回ほど、ワインやオリーブの輸入で訪れているが、行くたびにある種のパワーを感じる。テル・アビブやエルサレムは勿論、ちょっと郊外に行けば、「この山でキリストが説教したのか」「あそこで結婚式の為に水をワインにかえたのか」と至る所が聖書のテーマパークなのである。

またその頃、今では考えられないが、彼のジェリコを通り、ヨルダン川を渡って陸路、死海を通りヨルダンのアンマンそして、ハリウッド映画ハリソンフォードの『インディジョーンズ』の砂漠の都市「ペトラ」まで行ったことがあったが、今では夢のまた夢。

――ジェリコからヨルダン川へ――

やれ，ヒズボラだ、シリアだ、空爆だとイスラエルはいつもきな臭く危険一杯のように感じられるが、ニューヨーク、ロンドン、ましてや東京までもが物騒な昨今、イスラエル、特に首都テル・アビブの治

安の良さは、皮肉でもなんでもなく世界一ではあるまいか。

オフィスビル、ショッピングセンター、レストランと、人の集まるいたる所での厳しいチェックにはいつも驚かされる。ビジネスバッグ、ハンドバッグなどの中身は勿論、車の中、トランクまでも調べ上げ、たとえチェックのために大混雑しても、決して文句は言わせない。若いグラマーなガードマンに、「シャローン！」とにっこり笑いかけられれば、「どうぞ宜しく…」とばかり、自然に協力的且つ積極的にトランクを開け、バッグを差し出すのである。建国以来、パレスティナや周辺アラブ諸国との血なまぐさい闘争の中で、市民の安全を確保する国民的コンセンサスが行き渡っているのである。

しかし、ひとたび、繁華街に不審な荷物が放置されたりしていると、警察の対応はスピーディで鮮やか。不審物周辺50メートルは直ちにロープが張られ通行止め。遠くから恐る恐る見ていると、小さな月面車のようなかわいいロボットがパトカーから降ろされ、リモートコントロールでチョコチョコと不審物に近ずき、「バ、バーン」と拳銃を発射するのである。「単なる落し物！ 異常なし！」と、その手際の良さはたったの５分。

また、ベングリオン空港での出入国、特に搭乗の際の荷物検査には、いつもながら閉口させられる。「パスポートと搭乗券を拝見。何か、プレゼントをもらいましたか」「はい」と答えると、「では、それを見せてください」「いえ、預けたトランクにいれてありますが」「それでは、あちらに行って、トランクをもう一度開けて下さい」と拳銃を持った兵士の見守る隔離部屋に連れて行かれ、靴も脱がされ、汗まみれの下着の中までチェックされる。「そのＰＣも開けて、ＯＮにしてください」。いやはや、何度イスラエルに来ても、同じことの繰り返しなのである。

ガザ、ヨルダン西岸などのパレスティナとの共存地区では、まだ自爆テロが絶えないが、首都テル・アビブは最新探知防御システムを街中に隈なく張り巡らし、将に、イージス都市なのである。

新入会員

佐伯武雄（昭和41年　理工）
（下目黒３丁目在住）
趣味：ウォーキング、川柳、観劇、グルメ

新しい出会いを求めて、楽しい時間を過ごしたいと思い入会させていただくことになりました。

よろしくお願い致します。

高野　孝（昭和39年　理工）
（目黒１丁目在住）
趣味：カメラ

2003年に会社勤めを引退。悠々としていたのですが、引退10年でやや退屈になりウォーキング部会に入れて頂けたらと思っております。

よろしくお願い致します。

柴田大介（平成17年　政経）
（三田２丁目在住）
趣味：走ること、食べること、ヨガ、旅行、温泉

笠谷さんの紹介で昨年の若木会の忘年会にお邪魔しました。今年の新年会では、初めてにも関わらずたくさんの方とお話でき楽しかったです。

今後とも、よろしくお願いします。

ＨＰ便り

目黒稲門会ホームページ（HP）を是非ご覧願います。わざわざURLを入力しなくても『目黒稲門会』で検索すれば一発で出てきます。

また、HPのブログから「目黒稲門会アーカイブス」をクリックすると過去の全ての会報や新年会等会合の様子が動画形式でご覧いただけます。

編集後記

寒さからようやく解放され、待ちに待った桜が咲いたと思ったら、あっという間に散ってしまった。この会報が出来上がる頃には、北海道辺りでまだ咲いているのだろうか。

花が香る春の宵、まだ暮れたばかりの明るさの残る赤紫色の空を見上げれば、朧月。春宵一刻値千金。春の宵は何とも言えぬ趣がある。さらに、満開の桜の下で、気の合う仲間と酒を酌み交わせれば、こんなに楽しい事はないだろう。

この場面に一番ふさわしい所と言えば、東京人にとってはなんといっても「浅草」だ。

花と月と隅田川の流れは、まさに一幅の絵。

「錦織り成す長堤に　　暮るればのぼる朧月」

滝廉太郎曲の「花」の一場面でもある。

この春はこれにスカイツリーが加わって、一層いい景色なった気がする。

桜には間に合わなかったが、４月21日（日）、早稲田スポーツを観戦する会の早慶レガッタ観戦に参加してきた。しかし、４月としては48年ぶりという寒さに震えながらの応援。残念ながら春の隅田川の風情は味わえなかったが、又のお楽しみが出来た。

（地田　記）